

圧力容器をバーンウェルで ようやく安全に処分



上：2002年8月に行われたメイン・ヤンキー原子力発電所の原子炉圧力容器取り外し作業。

右：圧力容器は、発電所サイト裏庭の制限区域にある積出し架台で保管され、サウスカロライナ州のサバンナ川の水位が上昇してはしけ輸送が可能になるのを待っていた。



エリック・ハウズ (Eric Howes)

メインヤンキー原子力発電所は、6月7日に、デコミッションング・プロジェクトにおける大きな節目に到達した。同発電所サイトに残された最後の大型構成機器である重量1,175トンの原子炉圧力容器パッケージは、サウスカロライナ州バーンウェルにある CNS/デュラテック社の低レベル放射性廃棄物 (LLW) 処分施設で安全に処分された。

原子炉圧力容器は、2002年9月に、輸送コンテナに入れられて格納容器建屋から出され、裏庭の制限区域にある積出し架台に運ばれた。圧力容器パッケージはそこで保管され、サバンナ川の水位が上昇してはしけ輸送が可能になるのを待っていた。長引く干ばつのため同川の水位は低かったが、2003年第1四半期に多くの雨が降ったため、5月にはしけ輸送が可能になった。

メインヤンキー発電所は、この機会を利用して、5月6日に発電所サイトからはしけで圧力容器パッケージを搬出した。東海岸沖を1,200マイル (1,931キロメートル) 南下し、米エネルギー省のサバンナリバー・サイトまでサバンナ川を遡行し、22マイル (35.4キロメートル) 陸送して、LLW 処分施設に無事到着した。

メインヤンキー発電所のデコミッションングは、現在80%近く完了しており、2005年前半に終了する予定である。

エリック・ハウズ氏は、メイン・ヤンキー・アトムック・パワー社の広報・政府担当部長である。



冬季と春季の雨によってサウスカロライナ州の干ばつが解消し、河川水位が十分に上昇したことを受け、2003年5月に、原子炉圧力容器が発電所の斜路に運ばれた。圧力容器ははしけに載せられ、バーンウェルのLLW 処分施設に輸送された。メインヤンキー原子力発電所は、大型構成機器のはしけ輸送について経験がある。2000年春に、同発電所の蒸気発生器3基と加圧器を、2度にわたってメンフィスにあるデュラテック社施設に安全に輸送した（Radwaste Solutions、2000年9/10月号、50ページを参照）。

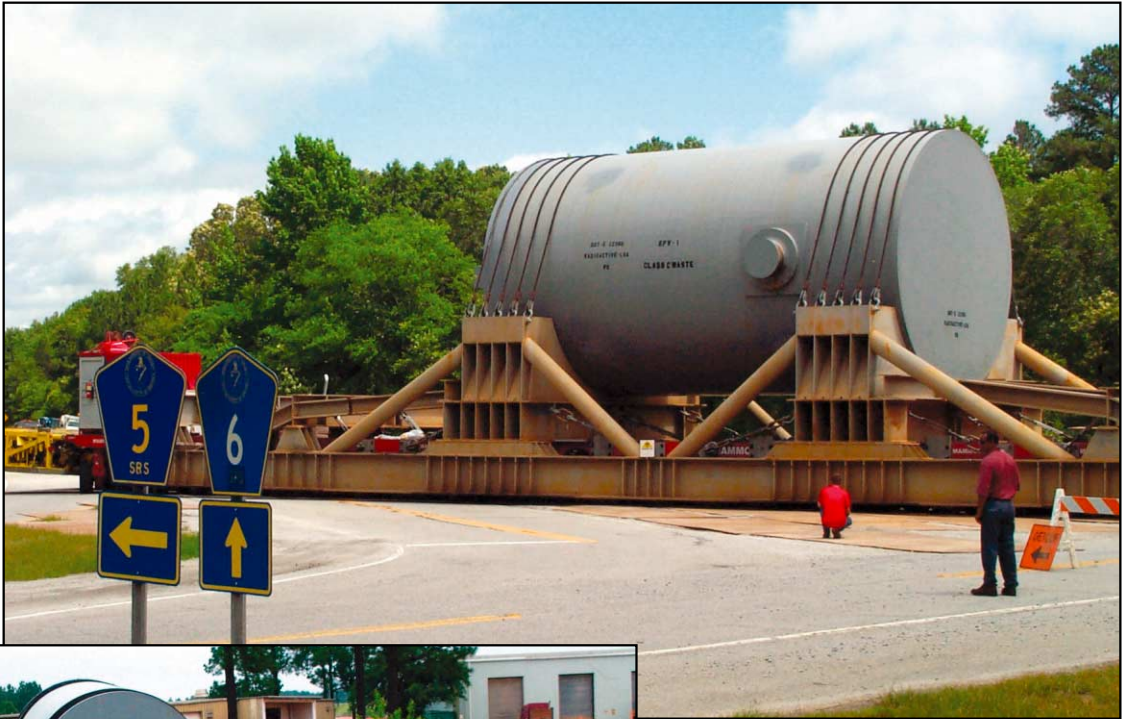
メインヤンキー発電所に残された最後の大型構成機器である原子炉圧力容器は、6月に、サウスカロライナ州バーンウェルにある低レベル放射性廃棄物処分施設で安全に処分された。



上：はしけに載せられた圧力容器。圧力容器パッケージは、長さ約35フィート（10.7メートル）で、外径は19フィート（5.8メートル）を若干超える。パッケージの総重量は1,175トンである。

中：5月6日に出航した圧力容器を載せたはしけ。

下：ノースカロライナ州を通航するはしけ。



上：重量物運搬車に載せられてパーンウェルに向かう圧力容器。

左：パーンウェルの処分トレンチに搬入される圧力容器（6月7日）。

下：パーンウェルのトレンチに置かれ、最終的に土をかぶせられるのを待つ圧力容器（6月8日）。

